

重点事項

# 1 小型船舶の海難防止

出航する前にはしっかり確認、航海予定の周知を!!

プレジャーボートの海難で一番多いのがエンジントラブルです。  
下架後や出航する前には

●燃料 ●エンジンオイル ●バッテリー ●冷却水 など

の検査を確実にし、安全運航を心がけましょう。また、家族やマリナーなどに航海予定を伝えておくなど、万が一に備えましょう。

※台風による強風などの影響で、係留小型船舶の流出や浸水が発生しています。荒天が予想される場合は、早めの係留索の強化や陸揚げ保管などの対策を行いましょ。

重点事項

# 2 見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進

なんといっても見張りが重要です!!

海難で一番多いのが衝突であり、原因は「見張り不十分」や「不適切な操船」が多数を占めています。

## 1. 常時適切な見張りの徹底

「居眠り運転」や自動操舵任せで見張りをおろそかにせず、常時適切な見張りを行いましょ。

## 2. 船舶間コミュニケーションの促進

十分に余裕のある時期に船舶間コミュニケーションを図り、相手船の動きを把握し、適切な操船を行いましょ。

- 早めに相手船にわかりやすい動作をとる
- 国際VHFや汽笛信号などを活用する
- AIS情報の活用と正しい情報の入力



重点事項

# 3 ライフジャケットの常時着用など自己救命策の確保

万が一、海に転落した場合、

①海上に浮く ②ただちに救助要請 という2点が必要不可欠です。



ライフジャケットの常時着用

携帯電話など連絡手段の確保

海の緊急通報

※音声通話を困難とする障がいを持つ方は、海上保安庁が提供するインターネットサービス「NET118」を利用できます。

重点事項

# 4 荒天時における走錨などに起因する事故の防止

台風など接近の際は早め早めの対応を!!

経営トップから現場まで一丸となった安全管理体制の確保による走錨対策が重要です。

## 1. 船長、運航管理者などへのお願い

- 『自船が走錨を起こしうる』という認識の下、危機感を持って事故防止に備えましょ。
- 最新の気象・海象情報を入手し、時間的余裕を持って避難を開始しましょ。
- 走錨の可能性を把握するため自船及び周囲の船舶の錨泊状況の監視など、適切な当直を実施しましょ。
- 主機関・スラスタなどを直ちに使用できる状態にしましょ。

## 2. 荷主企業などへのお願い

- 船舶が時間的余裕を持って他の海域に避難できるよう、荷役計画の変更など柔軟な対応をお願いします。